

### 高校進路指導室の扉

#### —新しい高大連携— ・接続に向けて—

2022年度から高校では「総合的な探究の時間」が始まっている。ここでは、探究の見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、自己の在り方生き方を考えながら、よく課題を発見し解決していくための資質・能力を育成することが目標となっている。さらに、自己の在り方生き方と一体的で不可分な課題を自ら発見し、解決していくような学びを展開していくことが期待されている。

熊本北高校は、2011年に文部科学省のスーパーサイエンスハイスク

**熊本県立熊本北高等学校  
指導教諭 溝上広樹**

ール（SSH）に指定されて以来、興味・関心に加え、過去・現在・将来を振り返り探究活動のテーマ設定を進める支援法の開発と実践を進めている。本稿では、この実践を下支えし評価するためルーブリックの開発と実践について紹介したい。高校から大学へのシームレスな接続が求められる中、高校の探究活動とその評価の実践事例が、高大連携の一助となれば幸いである。

熊本北高校の探究活動は、理科・英語科の3学科を有する学校であり、当初は理科を中心にSSH事業の研究開発を進めてきた。昨年度から新たに第Ⅲ期5年間のSSH研究指定を受け、これまで培ってきたノウハウを校内外へ普及することを旨とし、全学科・全学年での探究活動を進めている。基本的な流れは、1年次

は探究活動の基本的なスキルの習得、2年次の週2時間の本格的な探究活動、3年次の海外校とのオンラインポスターセッションとなっている。研究テーマとして、理科では「3Dハザードマップの作成及び災害シミュレーション」、英語科では「各国のヤングケアラーの問題について」、普通科では「神話と映像観点から見る千と千尋の神

は探究活動の基本的なスキルの習得、2年次の週2時間の本格的な探究活動、3年次の海外校とのオンラインポスターセッションとなっている。研究テーマとして、理科では「3Dハザードマップの作成及び災害シミュレーション」、英語科では「各国のヤングケアラーの問題について」、普通科では「神話と映像観点から見る千と千尋の神



## 探究活動の共有ビジョン 高大共創ルーブリックを目指して

は探究活動の基本的なスキルの習得、2年次の週2時間の本格的な探究活動、3年次の海外校とのオンラインポスターセッションとなっている。研究テーマとして、理科では「3Dハザードマップの作成及び災害シミュレーション」、英語科では「各国のヤングケアラーの問題について」、普通科では「神話と映像観点から見る千と千尋の神

は探究活動の基本的なスキルの習得、2年次の週2時間の本格的な探究活動、3年次の海外校とのオンラインポスターセッションとなっている。研究テーマとして、理科では「3Dハザードマップの作成及び災害シミュレーション」、英語科では「各国のヤングケアラーの問題について」、普通科では「神話と映像観点から見る千と千尋の神

は探究活動の基本的なスキルの習得、2年次の週2時間の本格的な探究活動、3年次の海外校とのオンラインポスターセッションとなっている。研究テーマとして、理科では「3Dハザードマップの作成及び災害シミュレーション」、英語科では「各国のヤングケアラーの問題について」、普通科では「神話と映像観点から見る千と千尋の神

は探究活動の基本的なスキルの習得、2年次の週2時間の本格的な探究活動、3年次の海外校とのオンラインポスターセッションとなっている。研究テーマとして、理科では「3Dハザードマップの作成及び災害シミュレーション」、英語科では「各国のヤングケアラーの問題について」、普通科では「神話と映像観点から見る千と千尋の神

は探究活動の基本的なスキルの習得、2年次の週2時間の本格的な探究活動、3年次の海外校とのオンラインポスターセッションとなっている。研究テーマとして、理科では「3Dハザードマップの作成及び災害シミュレーション」、英語科では「各国のヤングケアラーの問題について」、普通科では「神話と映像観点から見る千と千尋の神

は探究活動の基本的なスキルの習得、2年次の週2時間の本格的な探究活動、3年次の海外校とのオンラインポスターセッションとなっている。研究テーマとして、理科では「3Dハザードマップの作成及び災害シミュレーション」、英語科では「各国のヤングケアラーの問題について」、普通科では「神話と映像観点から見る千と千尋の神

は探究活動の基本的なスキルの習得、2年次の週2時間の本格的な探究活動、3年次の海外校とのオンラインポスターセッションとなっている。研究テーマとして、理科では「3Dハザードマップの作成及び災害シミュレーション」、英語科では「各国のヤングケアラーの問題について」、普通科では「神話と映像観点から見る千と千尋の神

は探究活動の基本的なスキルの習得、2年次の週2時間の本格的な探究活動、3年次の海外校とのオンラインポスターセッションとなっている。研究テーマとして、理科では「3Dハザードマップの作成及び災害シミュレーション」、英語科では「各国のヤングケアラーの問題について」、普通科では「神話と映像観点から見る千と千尋の神

表 熊本北高校SSHマクロレベルのルーブリック(各評価基準の記述はS段階の概略)

	S: 求めているレベルを超えて達成	A: 求めているレベルを十分に達成	B: 求めているレベルをおおむね達成	C: 求めているレベルを達成できないが努力が認められる	D: 求めているレベルには大きな課題がある
①問題発見力	疑問力: 疑問点をそのままにせず、自らの力に加え外部機関等を活用できる。 考究力: 得られた結論から社会や自身との関わりを見出せる。				
②課題遂行力	アプローチ: 研究分野の現状を把握し、適切な解決方法を選択できる。 計画実行力: 自ら実験系を的確に考案・計画し、実行することができる。				
③データ活用能力	データ判断力: 知識を活用し、根拠となるデータを適切に判断できる。 データ分析力: 適切なデータ処理で十分な分析結果を提示できる。				
④多面的思考力	共創的態度: 共同研究を通して新たな価値を生み出すことができる。 客観的評価: 社会的・倫理的側面からも総合的に評価できる。				
⑤科学的表現力	表現する力: 学会等の投稿規約に従って、論文を執筆することができる。 伝える力: 専門家等の意見を理解し、議論を踏まえた考えを説明できる。				
⑥科学英語運用力	英語で読み書きする力: 英語文献を読み、必要な情報を得ることができる。 英語で聞き話す力: 海外の生徒と英語で議論し、的を射た質問ができる。				

今後は、高大が共創して教育改革を確実に進めていくことが重要である。その際に、各学校の思いやビジョンが詰まったマクロルーブリックのようなツールが活用され、学校種を越えて教員同士が語り合い、シームレスな生徒・学生の成長を促すための仕組みづくりが各地で進んでいくことを願っている。

- 〈参考文献〉
- 1 文部科学省(2018) 高等学校学習指導要領(平成30年告示) 解説 総合的な探究の時間編
  - 2 De Sillers 他(2011) Academic TRANSFORM ATION Pearson
  - 3 鈴木克明(2017)「教授・学習過程の革新」、東北大学高度教育・学生支援機構紀要、3号、p.13-26
  - 4 リクルート進学総研(2023)「入試は社会へのメッセージ」SSH指定校との高大連携(崇城大学)、リクルートカレッジマネジメント、2023号、p.62-63